

一でコンセンサスをつくるようにやっていっていただけると、文京区らしさが出るのかと思います。

【広報課長】

ありがとうございました。

【区民D】

先ほど、水回りのお話も出ましたが、タクシーの運転手さんが利用するとか、あるいは水回りがあるとホームレスの方がというお話が先ほど区長さんからありました。私は逆に、タクシーの運転手さんが利用してくだされば、大人の目があって子どもたちが遊んでも安心と思います。ホームレスの方は、今はトイレはありません、公園を利用されていらっしゃると思います。そういったことは関係なく、通常あるべきものがないということのほうの問題なのではないかと思っていますので、そのあたりもお考えいただいて、トイレの設置は難しいとおっしゃいましたが、利用しやすいトイレがあるというのはだれにとってもいいことなのではないかと思いました。

【広報課長】

ありがとうございました。

それでは、続いてのテーマに移らせていただきたいと思います。Cさん、お願いします。

【区民C】

続いてのテーマといいますか、似たようなことですが、私は住環境の点についてです。先ほどぎりぎりで気がついて申し込まれたと言いましたが、ぎりぎりで気がついた方にさらにぎりぎりで教えていただいて、もっとぎりぎりで申し込んだので、自分が何を書いたか少しよく覚えていないのですが、今、基本構想から都市マスタープランに入って、本日、高度地区の指定方針のパブリックコメントが終わったのですが、基本構想にしても都市マスタープランにしても、文京区の魅力というのはやはり歴史とか文化の遺産的なものだという事は共通の認識になっているようです。それは低層住居地域の、都内、都心では珍しく第一種低層住居専用地域がたくさん残っているということで、住居地域が一番、用途地域でたくさんのパーセンテージを占めている区なので、その辺の落ちついたたたずまいというものが文京区の魅力となっているにもかかわらず、特に第一種低層住居専用地域の中ですが、そのたたずまいがここ一、二年でほんとうにひどい状態になってきています。

うちの周りも第一種低層住居専用地域ですが、今は空き地とコインパーキングと工事現場ばかりになってしまっています。細分化されて、それはいろいろな事情がおりなので

しょうが、その後に入ってくるものがひどいということで、大型クレーン車、10メートル規制なのですが、その3倍以上あるような大型のクレーンが、道を堂々と全部ふさいで工事をしているという状況で、少しこれは異常なのではないでしょうか。今までも、私の家も3代住んで、そのうち2回、建て替えましたが、一度も公道をふさぐという形でやったことはありません。大型クレーンも入りませんでした。ところが最近、建築基準法の改正か何か知りませんが、ほんとうにぴったりと隙間なく、小さい建物が建ってしまいます。敷地ぎりぎりに建っている、これがほんとうに第一種低層住居専用地域かと思うような有様です。

建築士の方に伺ったら、建築基準法の改正で、容積率に入れなくていいところが増えていくということで、囲って、中に空地エリア、ドライエリアや駐車場など、壁の中に囲ってしまって外側が壁になっていても建ぺい率60はいいとなっているのだそうで、少しこれではとても落ちついたたたずまいや雰囲気などが守れないという感じが非常にしています。危機感を持っています。

それで、クレーン車がこの間、本郷三丁目で倒れました。それはやはり、狭いところに無理に大きなものを入れると、どうしても安定が損なわれて倒れたりするというのもあって、麹町では死人も出たということです。やはり、その町のスケールに合った道路とか、合ったものがあることが、その町らしさということにもなるし、あまり業者の言いなりとか、法の簡隙を縫うような形での開発を認めるのはどうかと思っています。合法だということですが、個人の権利もあるのですが、今、マスタープランでも魅力を守る、魅力と言われているもの、将来の姿まではほんとうに賛同できるのですが、その次の段階、では、どうするかというところになると途端に、これでは守れないという形になってくると思うのです。

例えば、今度の高さ制限もそうですが、もう少し人口増加を目指すような開発型から、生活の質を守るとか高めるような、縮小型に転換する時期ではないかと私は思います。それにはやはり思い切って、欧米のように権利の制限というものも考える時期ではないかと思っています。この町に住むのであれば、この町のルールに従ってくださいということもできるのではないかと思います。今、建築紛争が増えているのですが、それはほとんどがスケールの大き過ぎるものに対して、個人の人たちの集まり、1人ではないにしてもそういう対立構造になっているわけで、決して住民と住民の間で争っているというものはあまり多くないように思います。どうしても大きなディベロッパーや、例えば私たちの近くで

あれば今までにないようなワンルームマンションが入ってきたりなど、やはりその町のたたずまいを壊すような形で入ってくるということは、もうそろそろ規制していかないと、せっかくの、マスタープランなどで目標とするものが達成できないのではないかと思います。

少し長くなりますが、文京区のまちづくりについてです。行政訴訟が文京区は大変多いと聞いています。やはり、住民と区が争っているのは変な形で、ほんとうであれば、住民と区と一緒にマスタープランなり、基本構想に沿って、ディベロッパーさんと争うというのが普通ではないかと思います。その辺も異論がおりでしょうが、やはり住民参加で丁寧なまちづくりをしていくためには、そろそろまちづくり条例もつくったらいのではないかと思います。今までも何度か、まちづくり条例という言葉は出てきましたが、必要ないということでも来ました。やはり自治基本条例のあと、何も進んでいない、一步も住民参加が進んでいないということを考えると、やはりもう一つ、自治基本条例の下にある、それを具体化するような条例がそろそろ必要な時期なのではないかと思います。

区民のほうからそういう機運が高まらないという声も聞きますが、周辺の都市、町ではそろそろ検討委員会ができていくところが多く、友達のやっているまちづくり条例検討委員会をこの間、傍聴してきましたが、住民参加の委員と団体代表の委員など、20人ぐらいですが、傍聴者が50人ぐらいいます。すごく関心が高いのです。そこは住民が陳情してつくることになったようですが、文京区ではまだ陳情はないかもしれませんが、ぜひ区長さんの牽引力^{けんいんりき}というか、主導で、まちづくり条例も検討に入っただければと思います。

【広報課長】

ありがとうございました。まちづくりと開発や規制、条例といったお話でしたが、いかがでしょうか。

【区長】

幾つか聞いていて気になった点だけ、反論するつもりではありませんが、行政訴訟が他の区に比べて文京区が多いという印象は、基本的にありません。「多かった」であれば、うなずくかもしれません。監査請求もかつては多かったかもしれませんが、今は聞きません。

自治基本条例以降、住民参加が進んでいないという意識も、実はありません。さまざまな住民参加、本日のこの会も試行錯誤の一つだと申し上げましたが、本日のこの場も、さまざまな住民参加の機会をどうやって保障するのか、パブコメや説明会での質疑応答だけ

ではなく、テーマ別のものもやってはどうかということで、いろんな試行錯誤を続けているところです。自治基本条例以降、住民参加が進んでいないと言われると、少し悲しくなります。

それと、まちづくり条例が万能薬だとは思っていません。例えばまちづくり協議会への助成やコンサルタントの派遣や、さまざまな実際の作業を積み重ねていくことが、私は大事だと思っていて、初めに条例ありきで、それによって何か結論まで一気に導かれるというようなものでは、そもそもないだろうというのが私の認識です。

それと、ワンルームマンションは、西片のことでしょうが、ワンルーム規制条例を強化してから、文京区でいわゆるワンルームマンションは激減しています。これはデータになっています。ですが、必ずどこかに基準があるので、その規制の範囲より少ない、若しくは一部屋当たりの平米について、当然これも基準があるので、そのぎりぎり建物で建つケースはあると思います。これは、例えば絶対高さ制限でも、さっき人によって感じ方の意味が違うという話をしましたが、どこで切ったとしても、その端境では当然、議論は起きるはずですから、それと同じかと思います。

空き地とコインパーキングばかりということに同感です。これは実は、第一種低層住居専用地域に限っていません。文京区は現在、商業地でも空き地とコインパーキングだらけになっているのだろーうと思います。ここ数年、文京区の人口は、住宅着工件数がほぼ2年後に人口が増えたり減ったりにあらわれるという人口動態ですが、ここのところぱたっととまっているから、人口増も19万人は回復しましたが、かつての勢いほど増えていません。そちらが動くかどうかによって人口のことは出てくるはずですが、それと、あとは転入を増やすべきなのかどうかについては、これは開発、土地活用だけの話ではないと思います。私はもう少し人口を増やしたほうが、文京区が持続可能な社会、それは世帯間の負担の関係からいっても、子育て世代、担税能力の高い子育て世代をもう少し増やしたほうが、文京区にとっては将来的に、土地活用の意味だけではない、いいまちづくりができるという考えです。

今のところは、とりあえず終えておきます。

【広報課長】

他の皆さん、いかがですか。

職員からもいかがですか。よろしいですか。

【都市計画部長】

今のご質問の中で、現在の町がなかなか守れない状況になっているというお話があったかと思うのですが、実は、守ろうと思えば現在でも守れないことはありません。先ほどの、コンセンサスの話もありましたが、地域にお住まいの方々がまさにコンセンサスを得て、自分たちの町をこういう町にしようではないか、こういう用途の建物は排除したいなど、そういうことがまとまるのであれば、地区計画という手法がございます。お聞きになったことがあると思いますが、それは現在でもできることです。ただ、先ほどから議論になっているように、コンセンサスを得るということは、そんなに簡単なことではなく、ある何人かの方では同じ考えでまとまることはあり得るのですが、地区計画というのは一定程度の大きい面積でかける制度なので、そういった大きなエリアの中で、一つの考えに基づいて、目標に向かってみんなで一緒に進もうというところまでまとめていくということは、並大抵の話ではありません。区がそういうことを仮に手がけたとしても、なかなかできないというレベルのものです。

自分たちの町をどうするかということは、決して区が、こういう町がいいと押しつけるのではなく、やはり地域にお住まいの方々が、自分たちの町をどうしたいかというところから出発すべきだと思います。そこに住んでいて、一番影響を受けるのは住んでいる方であり、役所が一番影響を受けるわけではないということからすれば、やはりそこに住んでいる方々が、自分たちの町をどうしたいかということを実際に考えて、そういった合意形成を図って、まちづくりに向かって進んでいくということになるかと思います。我々もまちづくりを進めるときには合意形成というのを目指して、いろんな話し合いですとか、コンサル派遣だとかということで支援をやっているという状況です。

【広報課長】

Bさん。

【区民B】

先ほどコンセンサスの話もありましたし、住民の、住んでいる方皆さんのコンセンサスを得て、いろいろな建物なりをつくっていくという話もよくわかるのですが、先ほどの話に若干戻ってしまうのですが、例えば喫煙の話があります。町を喫煙して歩いて何が悪い、私はたばこを吸う権利がある、という話です。ただ、文京区は、このシビックセンターの周りを含めて禁煙になっていて、歩きながらではできません。つまり、個人の、私がよければいいということと、グループ全体ないしは地域全体のベストの形はやはり違う部分があると思います。ですから、住民一人一人がたばこを吸えるのに、何で区がそれをとめる

のだというロジックよりも、全体的に見たときに喫煙をして何が起きるかという観点で区が、ある意味ではバランスをとってあげる、それが必要なのではないかと思います。

先ほどビルの話を、汐留の話で若干しましたが、1つのビルは何の問題もないかもしれませんが、それが集まることによって何が起きるかということです。ですから、一步高いところ、ないしは全体的な視野、ないしは時間的なものを見据えた上で、そういう判断をしていかなければいけないと思うのです。個人個人のコンセンサスも重要だと思いますが、ぜひともそこに、全体を見た上でどういう形がいいのかという判断をもって基準の設定とか、全体的な見直しというものをやっていただければと思います。

【広報課長】

Aさん、お願いします。

【区民A】

地域の住民の中で合意形成を図ればいいではないかというお話だったと思うのですが、うちの近所の坂道をどのように開発するかという話になったときに、区役所の道路課からの説明会がありまして、このように業者が開発するつもりですと説明されて、そんな話は聞いていないとか、こういう道路にしてほしいとか、そのときに大分、住民から要望が出ました。その要望を踏まえてもう一回、練り直しをするのかと思ったら、それで終わりになって、業者の計画どおりに着々と開発が進められるということがありました。そういうことを見ていると、住民のほうも、どうせ何か言ったって好きなように決められてしまうということで、だんだん、政治不信ではありませんが、やる気がなくなってきました。やる気がなくなるのはおまえが悪いのだと言われてしまえばそれまでかもしれませんが、そういうことの繰り返しをしているようでは、一向に進歩しないのではないかと思います。

【広報課長】

ありがとうございました。

Cさん。

【区民C】

いろいろ皆様のご意見、ありがとうございます。さっき、都市計画部長さんのお話で少し感じたのですが、例えばうちの町は町会でマンションができるたびに、その事業者と管理協定を結んでいます。住民の生活を守るという意味では、コンセンサスは一応できています。ところが、やはり合法だということで住民の権利が非常に侵害されるよう

なものが建ってしまって、あつせんをお願いして区に間に入っていたのですが、区
のほうもやはり、業者の立場に立つといたら変なのですが、業者ももうけなくてはなら
ないということをおっしゃります。そのとおりなのかもしれませんが、合法ということが
一番大きいのでしょうか、やはり何か、幾ら住民がまとまってもどうにもならないことは
いっぱいあるのです。

それで、管理協定もできて工事協定も渋々結んで、建て始まった途端にやはりお隣の路
地の塀が壊れてしまいました。もう最初から見えているのだけれど、それをどうにも取り
締まれないルールというのは、やはりもう少し、足りないから上乘せして、区も一緒に戦
っていただきたいというのが本音なのです。

【区長】

お気持ちはよくわかります。実はローカルルールをどうつくっていくのかという議論だ
ろうと思うのですが、一般論から言って、法を超える条例はつくれないのです。例えば絶
対高さ制限などは、法によって絶対高さ制限をかけることが認められているからできるル
ールで、法を超えていません。細かい基準を知らなくて申しわけないのですが、さっきC
さんが問題提起されていた、大きなクレーンが入るではないかということは、これが法の
基準を超えていれば、道路管理者なり警察なりがその車両を使うなということとは当然、で
きるわけですが、その法の中で、条例等によって細かな基準をつくっていいとなっていな
い限りは、そういうローカルルールをつくるのが違法になるのです。そうすると、逆に
言うとそのことで行政訴訟を受けることになるわけです。ですので、ローカルルールのつ
くり方というものは一定、限界がある中でどうつくっていくのかということがもともとの
我々の、行政にしる議会にしるの限界であって、そこでの議論と、皆さんたちの、もっと
区は踏み込めるのではないかという意識の差が、多分、ご不満につながるのだらうと思
います。

【区民C】

不満ももちろんありますが、やはり安全を第一に考えれば、例えばクレーンの性能、ど
のぐらいのスペースで、どのぐらいアームをおろしたらどうなるということはあるわけで、
それは建築基準法や道路法には合っている、絶対無理なこともあります。現実に倒れて
しまう。

【区長】

個別具体の話になるとそういう話になってきてしまいますが、いわゆるローカルルール

とはそういうものだということは、やはり理解していただいた上で、どうとめるかという話になります。区行政がそれは危ないのではないかと、何の基準もなくとめに行くことは現実にできないことです。

【区民C】

基準が、要するに追いついていないのです。だから法改正しなければならないということもよくわかっているのですが、それはもっとものすごく難しい。合意形成と同じぐらい難しいし、同じように、やはり地方の町を守ろうとしているところでは、まちづくり条例が法に抵触してしまって、争っているところもあります。そのぐらいの気概があってもいいかと、少し思っています。

【広報課長】

ありがとうございました。

それではBさんにご意見をいただきたいと思います。お願いします。

【区民B】

大分、皆さんのお話が出ましたので、私の話す部分は余りなくなってしまったのですが、1つまずトピックスとして、私は実は住環境のことをぜひお話しさせていただきたいと思っていました。法律ないしは建築の基準というものを超えた例が最近あるのは、先ほど言ったエンパイアステートビルがマンハッタンにあるわけですが、1930年ぐらいにつくった非常に古いビルです。今でも建っていますが、最近このビルのガラスとか、エコビルディングに現在変えている最中なのです。ご存じでしょうか。

これは何の力で動いているかというのと、前の大統領のクリントンさんのやったイニシアチブで、クリントン・クライメット・イニシアチブ、CCIというのがあります。これのもとに皆さんがドネーションしたりして、ビルの、例えば窓を3重にするとか、先ほども会が始まる前に調整されていましたが、エアコンディショナーは、古いものはオン・オフ制御しかできません。暑かったらとまる、寒かったら入るみたいなことなのですが、それを連続的に可変できるシステムに変えたりしてしまして、私が少し調べましたら、全体の修理工事が大体500億ぐらいかかるのですが、今回、追加したのはその一部分で済んでいます。大体2,000万ドルでビルの窓ガラスなどを変えて、その結果、年間4億円のエネルギーの改善効果があったということです。古いビルでも新しく作り直すなり、見直すことによってエコに優しい地球環境にいいものができていくわけです。例えて言いますとこのシビックセンターももう10年ぐらいになりますので、改築される場合はぜひと

も成澤さんのクライメットイニシアチブをやっていただいて、もっとエコな、環境に優しいものを直していただくなりつくっていただければと思います。

それで、先ほどから話が出ている中で、今がよければ、ないしは今が持続すればいいという考え方はもう古くて、我々が十分悪いことをしてしまっているのです。車も乗ったし、食べるものも食べ散らかしたし、ビルも建ててしまった。ですから、どこに戻るかというものはなかなか判断としては難しいのですが、私どもの住む住環境は、この一、二年前に戻すのではなく、もっとあるべき姿のところに戻すような、考えを持ってぜひともプランを立てていただければと思います。その意味では、法律とは何なのか、環境法だのいろいろ出てくるかもしれませんが、先ほどのクリントンさんのイニシアチブは大統領時代にやり始めたわけですが、ぜひともこれを同じような形で、文京区が他区に先駆けてやっていただきたい。住環境という意味合いでは、公園、庭園等も非常に多いわけで、すぐれたバックグラウンドはあるのですが、それが悪化されることは、皆望まないと思います。その部分に関してはぜひとも目標をもう少し高く、5%などと言っておられますが、5%ではなくもっと高い基準で、文京区のもともとあった自然の姿に共存する、共生していくというまちづくりにぜひとも方向性を定めてやっていただけるといいのではないかと考えております。

他にも、ビルが建ったり道路に車が多いということではありますが、この前、コメントを求められたときにも少し書かせていただいたのですが、電気自動車など、これから増えていくものに対しての助成など、少なくとも区の中でどうすれば町がよくなるのかというものを、具体的な案として提示していかないといけない。これは単純なコストだけではないのです。相当、お金をかけないと、もとに戻りません。私たちがほんとうに食べ散らかした町になってきていますので、そこのところは思い切って、ぜひとも行動計画を立てて実践していただくことをお願いしたいと思います。

【広報課長】

ありがとうございます。都市化が進む中、住環境をどうやって両立させていくのかと、大きな視点でというお話だったのですが、いかがでしょうか。

【資源環境部長】

環境を担当しているセクションですが、ローカルですが文京区の地球温暖化対策地域推進計画というものを3月につくりました。その中で、一定目標を置きまして、中期目標としてはCO₂の8%、長期目標としては12%削減ということで、区民の皆さん、事業者

の皆さんと一緒にCO2の削減に取り組んでいくという計画をしています。ある程度、お金がものすごくかかります。この庁舎をLEDに全部替えるにしても相当のお金がかかるということは当然ですので、お金をかけないとCO2の削減など、もっと前のいい環境には戻れないということは事実です。

細々ですが、省エネ機器の助成とか、太陽光発電は3キロのもので200万ぐらいかかるのですが、1キロワット5万円など、そうした助成をしています。これもかなり今、申込みも来ておりまして、前期、後期で申込みを受けています。そういう意味では区民の皆さんの、CO2に対する削減の意識は結構進んでいます。これをもとに、啓発も含めて、文京区として取り組んでいくことを考えておりますので、一定のご理解をいただければと思っております。

【区長】

Bさん、今、部長から説明した地球温暖化対策地域推進計画の目標数値は、今のままの生活を区民がしていて、省エネ行動もしなければ環境に優しい機器に交換もしないでいた場合、実は4日に1回、丸1日電気を全くつけず、じっと家の中でお湯もわかさず何も食べずにいないと達成できない目標なのです。さまざまな行動を、区民の皆さんと一緒にやって、初めてその目標が達成できます。それでも、25%と国で言っているところから比べると、低い目標設定にせざるを得なかったのです。これは、区行政も当然がんばるし、ライフスタイルをこの国がどう考えていくのかという問題にも、多分つながることだろうと思います。

アメリカの例もご紹介いただきましたが、例えば本日はまちづくりも1つのテーマですが、アメリカのホームレス対策で有名なロザンヌ・ハガティという女性がいて、チェンジメーカーという言い方をアメリカでします。日本で鳩山総理が新しい公共と言うと何か変な感じだといって、我々も基本構想の中で似たような言葉を使って、ほんとうに大丈夫なのかと、いろいろご意見をいただきました。アメリカでチェンジメーカーと言われている人たちが何をやったかという、^{はき}廃墟、スラムになりかかったホテルやアパートをドネーションによってリニューアルして行って、そこにホームレスの人たちを住まわせることによってスラムを消していったという歴史があります。そういうまちづくりの土台というのは、残念ながら今の日本にはないのかもしれませんが、企業のドネーションや市民のドネーションを使いながらまちづくりをしていく。例えば、歴史的な建造物で守らなければならないものもあつたとしたならば、区に買い取れというだけでは恐らく解決せず、

企業や市民がどう参加をしていくか。千駄木にある旧安田邸などは、ナショナルトラストの運動によって確保されたわけですが、そうした市民の役割というものも、もう一度、焦点を当てていく必要があると、お話を聞いていて思いました。

【広報課長】

Bさん、お願いします。

【区民B】

ドネーションの話が出ましたので、私も成澤区長のツイッターをたまに見させていただいております。ツイッターというのはどこまで日本で根づくのかわからない部分がありますが、先ほど冒頭からの話で、区民がどのように情報を知って、どこでどんなことを悩んでいるのかということを知り共有できるような場を、もっと幅広く設けてもいいのではないかと思います。区長のツイッターを見るのもいいのですが、先ほどの環境の件も含めまして、結局どれだけお金をかけてどういうことをやっているのだ、ないしは何が困っているのだというものを共有しないと、我々の、今日こうやって話していることは知らない方が多いと思うのです。あとで議事録等々が出るという話がありましたが、ぜひともそういう意味では、文明の利器というようなものではないのですが、そのようなものを使ってなるべく、悩んでいる点などの部分を共有して皆さんの協力を得られるように、ぜひともお願いできればと思います。

【広報課長】

ありがとうございます。そのほか、ご参加の皆様、よろしいですか。

では、Cさん。

【区民C】

環境問題で、LCA、ライフサイクルアセスメントという考え方がありまして、1つのものができてから廃棄されるまでのエネルギーというものを考えるというやり方ですが、それで考えると、現在は更新が早過ぎて、赤坂プリンスホテルが30年で壊されるとか、日立の本社が25年で壊されるなど、そうしたことをしていると、幾ら庶民一人一人が4日に一遍食べなくても、全く追いつかないと思います。やはりもう少し社会全体の方向を、スクラップ・アンド・ビルドから、変えていかななくてはならないのではないかと、ほんとうにひしひしと最近、思っています。

【広報課長】

ありがとうございました。

それでは、そろそろ時間になりましたので、本日のディスカッションはこの辺で終了させていただきます。最後に成澤区長、お願いします。

【区長】

皆さん、どうもありがとうございました。限られた時間ですが、さまざまなご意見をいただけて、私は大変、ためになったと思います。冒頭、Aさんから周知方法等について苦言もありましたが、どうしていけばいいのかと正直思います。区報とホームページという基本的なツールは使っています。ホームページは見にくかったというご指摘をいただきましたが、区報はそんなに見にくいところにあつたとも思いません。見落としたとして、では、逆に区報を隅から隅まで読んでくださっている区民の方がどれだけいるのかというと、なかなかそれも難しいのです。正直、ご指摘はごもっともと思いますが、解決策はなかなか難しく、悩みどころです。

Bさんが最後におっしゃったツイッターのような、新しいソーシャルメディアサービスを活用するというのも1つのやり方ではあると思いますが、それは今度、管理がとても難しいのです。かつて電子会議室というようなことをやった自治体が、いろいろあって、国の補助金などを受けて、どこも最後は荒らしに遭って、大学の先生たちが外部委員的な立場で荒らしをおさめようと誘導して、対立の関係を解消しようとするのですが、結局だめで、どの自治体もほとんど閉鎖しています。私は試行錯誤を続けていると申し上げましたが、その点についてはこれからもさまざまな手法を研究してみたいと思います。

まちづくりの話で、この間、おもしろい話とレポートを読んだので、最後にご紹介しておきたいと思います。さきほど元町公園の話がありましたが、お茶の水女子大学がかつての湯島聖堂のところから医科歯科大学のところまであり、あそこに女子高等師範学校があつたから、現在大塚の地に移ってもお茶の水という名前がついたというのは有名な話ですが、お茶の水女子大学がなぜ今の場所に移ったかという、今の外堀通りができて、大学のキャンパスとして手狭になったから大塚に移ったのだそうです。より小規模で済むといって手を挙げた医科歯科に、その後全部譲ったというのが歴史的な経緯だそうです。あれは震災復興です。外堀通りはすべてがそうではないのかな。いい悪いは別にして、あれもスクラップ・アンド・ビルドなのです。それが今で言えば、歴史的な価値を持つようになってきています。

もう一つの話は、西片のまちづくりです。あるNPOが出したレポートを読んで、なるほどと思ったのは、あそこは阿部家の、福山藩の中屋敷だつたところが、明治に入って土

族の商法で分譲に変えました。そのレポートはなかなかおもしろいことが書いてあって、西片の町を今、上から見ると公園という形での緑は旧阿部公園、今の西片公園しかない。今、あの規模の、西片町ぐらいのところをディベロッパーが開発をすると、恐らくもっと緑をつくるでしょうという指摘のレポートでした。なるほどという気もします。そのときそのときで、まちづくりの仕方は違って、西片も、もっと緑を増やしても、もしかしたらいいのかもしれませんが。ただ、今からあそこにもう1回大きなディベロッパーを入れるということは現実的にはあり得ないでしょう。まちづくりとはそういう、いろんな歴史の折り重ねで、今日に至っているのです。ただ今のままや、過去に歯車を戻すという議論だけではなく、時代は必ず前にしか進みませんから、進めていく中でどのように、文京区らしいまちづくりをしていくのかという議論を、本日を一つの出発点にして、これからも皆さんと、していくことができればと思います。

今日は限られた時間ですが、ご参加いただいたことに心から感謝して、締めのごあいさつといたします。どうもありがとうございました。

【広報課長】

これを持ちまして、本日の会合を散会させていただきます。どうもありがとうございました。

— 了 —